

KEYCREATOR®

KeyCreator 2012

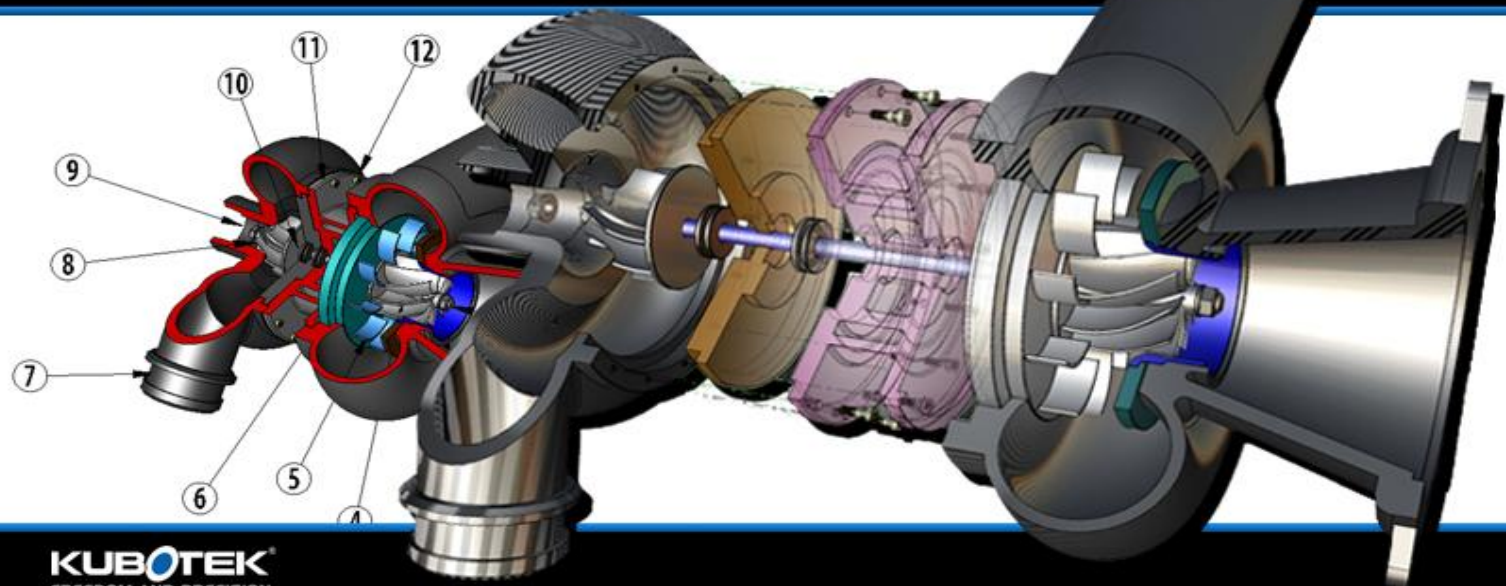
V11.3 Release Notes



KEYCREATOR®
3D DIRECT MODELING SOFTWARE

2012

Copyright © 1986-2012 Kubotek Corporation. All Rights Reserved.
Program is the property of Kubotek Corporation. Kubotek is
a registered trademark and KeyCreator is a trademark of Kubotek
Corporation. KeyCreator is based on ACIS® software, and ACIS
is a registered trademark of Spatial Corporation.



KUBOTEK®
FREEDOM AND PRECISION

KUBOTEK®
FREEDOM AND PRECISION

目次 1

-	KC2012	
•	KeyCreator2012 V.11.3.0	4
-	レイアウト	
•	投影図の隠れ線レンダリング	5
-	複写移動	
•	ダイナミック配列複写	8
-	ツール	
•	メンテナンス	11
-	外部変換	
•	データ変換の対応バージョン	12
•	IGES/STEP変換オプション	13

目次 2

- KXLマクロ
 - [新しいKXLマクロ](#) ----- 14
 - [ソリッドのレンダリング](#) ----- 15
 - [ビューと作図面のシンクロ設定](#) ----- 20
 - [その他のマクロ](#) ----- 24

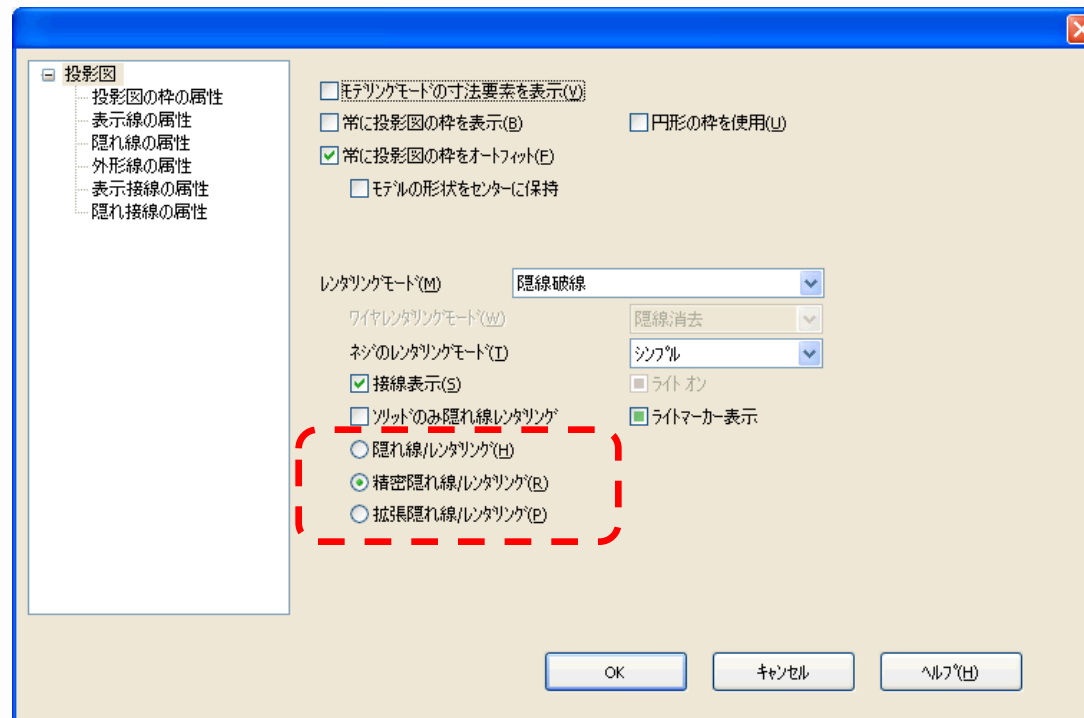
- デフォルト変更
 - [ビューアイコンとショートカットキー](#) ----- 27

● KeyCreator 2012 V. 11.3.0

- このバージョンでは、主に不具合の修正が行われました。
(100項目以上)
- いくつかの機能改良も行われ、次ページからその内容を説明しています。
- 既存のKC11.0をアンインストールしなくても、
本バージョンをインストールして共存することができます。
- CKDファイルは、KC11.0 と KC11.3 で100%互換性があります。

● 投影図の隠れ線レンダリング - (1/3)

ー 隠線消去ダイアログで、隠れ線レンダリングオプションが3つになりました。



● 投影図の隠れ線レンダリング - (2/3)

－ 隠れ線／レンダリング

- V10以前のHOOPS隠れ線／レンダリングと同じ
- HOOPS隠れ線／レンダリングで作成した古いファイルはHOOPSのままです。

－ 精密隠れ線／レンダリング

- デフォルト
- V10以前の拡張隠れ線／レンダリングと同じ
- V11.0の拡張隠れ線／レンダリングで作成したファイルは、この設定を使用

－ 拡張隠れ線／レンダリング

- 新しいPHL技術(KC11.0)
- 古いファイルでこのオプションを使用するには再設定する必要があります。



● 投影図の隠れ線レンダリング - (3/3)

－ 一般的な使用法

● 隠れ線／レンダリング

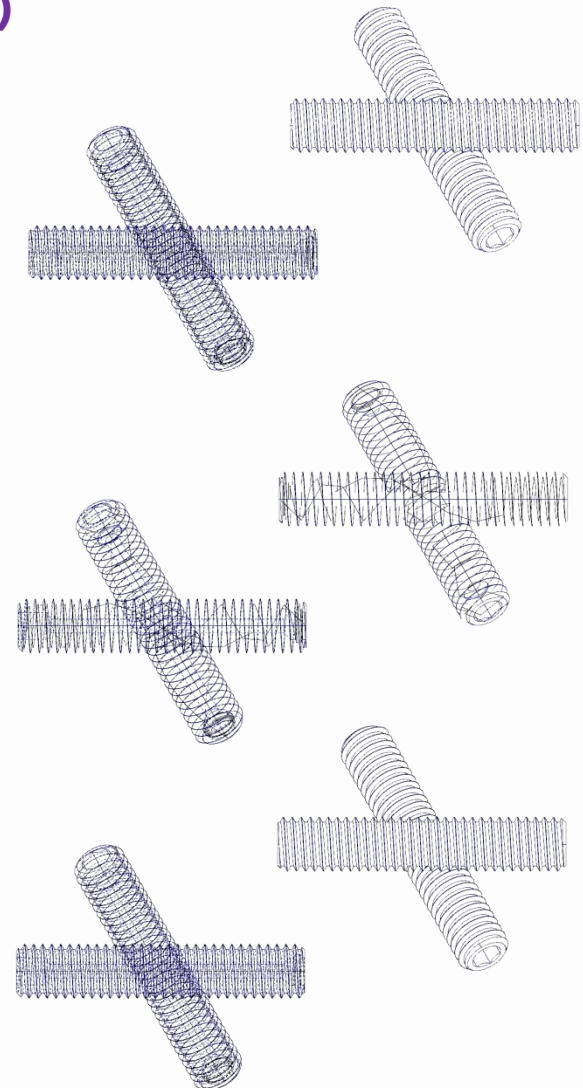
- － 高パフォーマンス
- － 低品質

● 精密隠れ線／レンダリング

- － 良パフォーマンス
- － 良品質

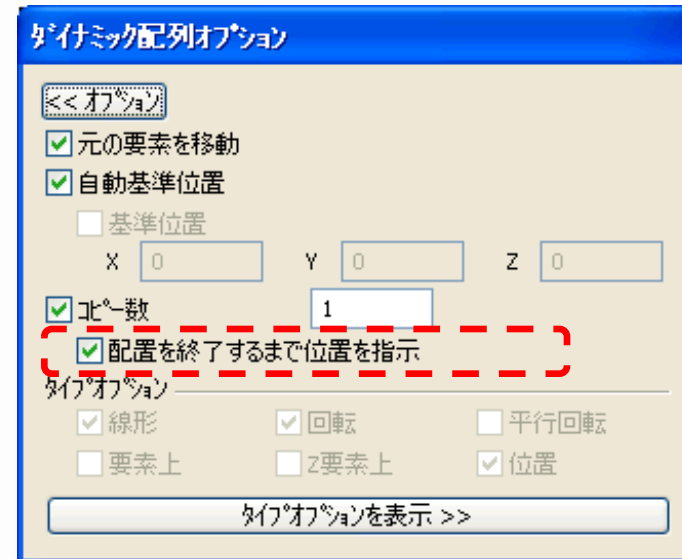
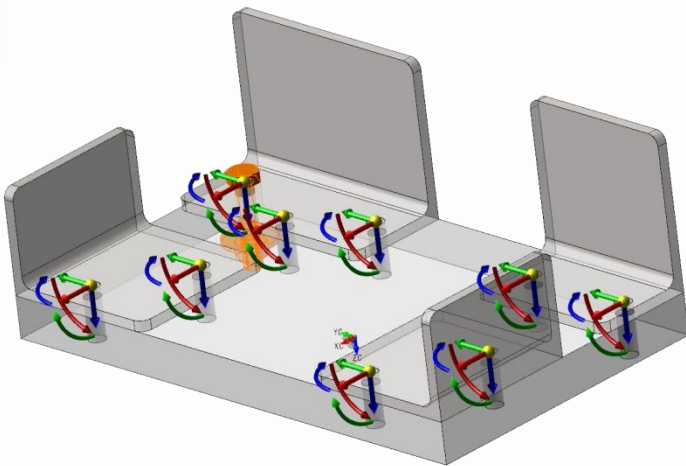
● 拡張隠れ線／レンダリング

- － 低パフォーマンス
- － 高品質



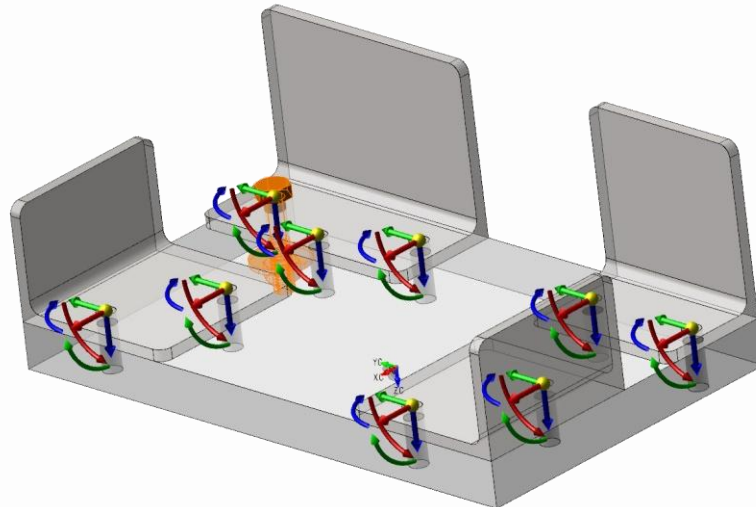
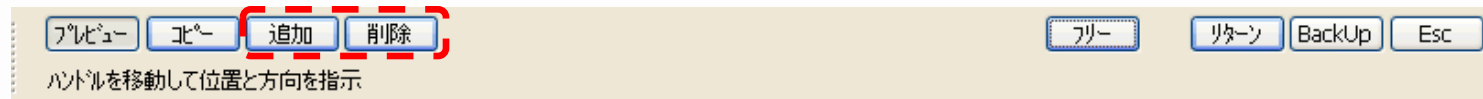
● ダイナミック配列複写 - (1/3)

- 複写移動:ダイナミック配列複写の位置オプションで、「配置を終了するまで位置を指示」チェックボタンが追加されました。ダイナハンドルでさらに位置選択を続行します。



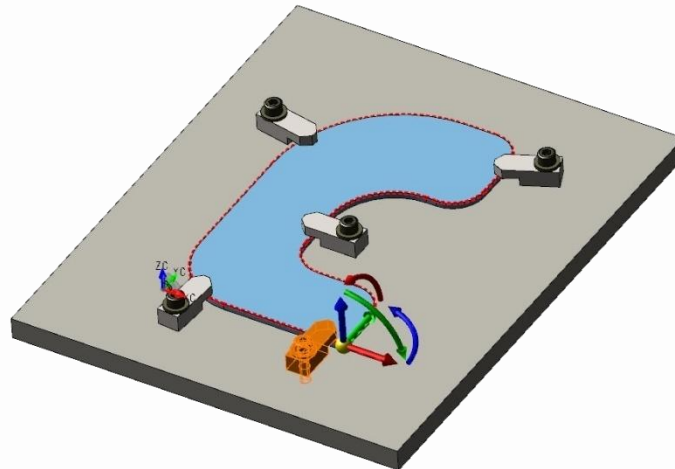
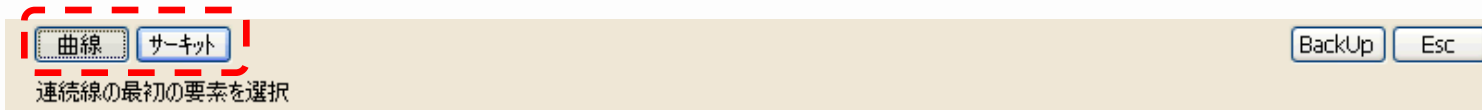
- **ダイナミック配列複写 - (2/3)**

- 位置オプションで、「追加」と「削除」ボタンが追加されました。



● ダイナミック配列複写 - (3/3)

- 要素上およびZ要素上オプションで、「曲線」と「サーキット」ボタンが追加されました。

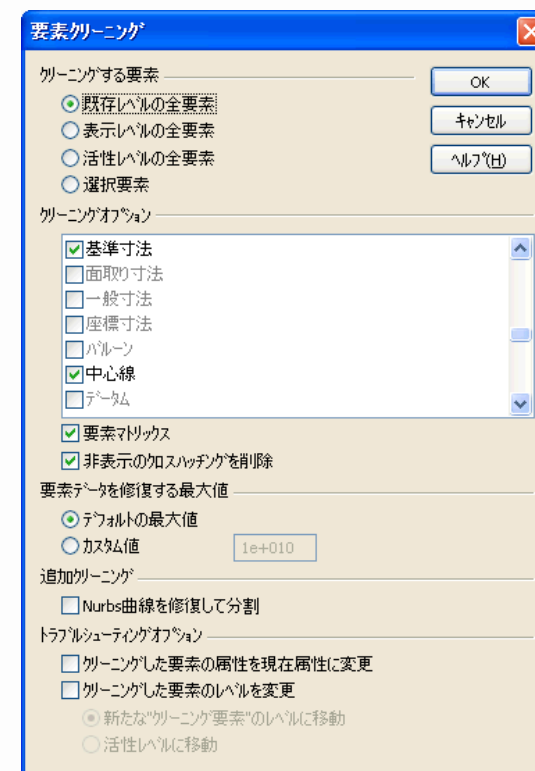


● メンテナンス

– ツール:メンテナンス:要素クリーニングで以下の要素タイプが追加され、エラー修正されるようになりました。

- ハッチング
- 投影図
- 中心線
- 基準寸法

– これらのエラーは、多くの場合DWGなどファイル形式の違いから発生します。



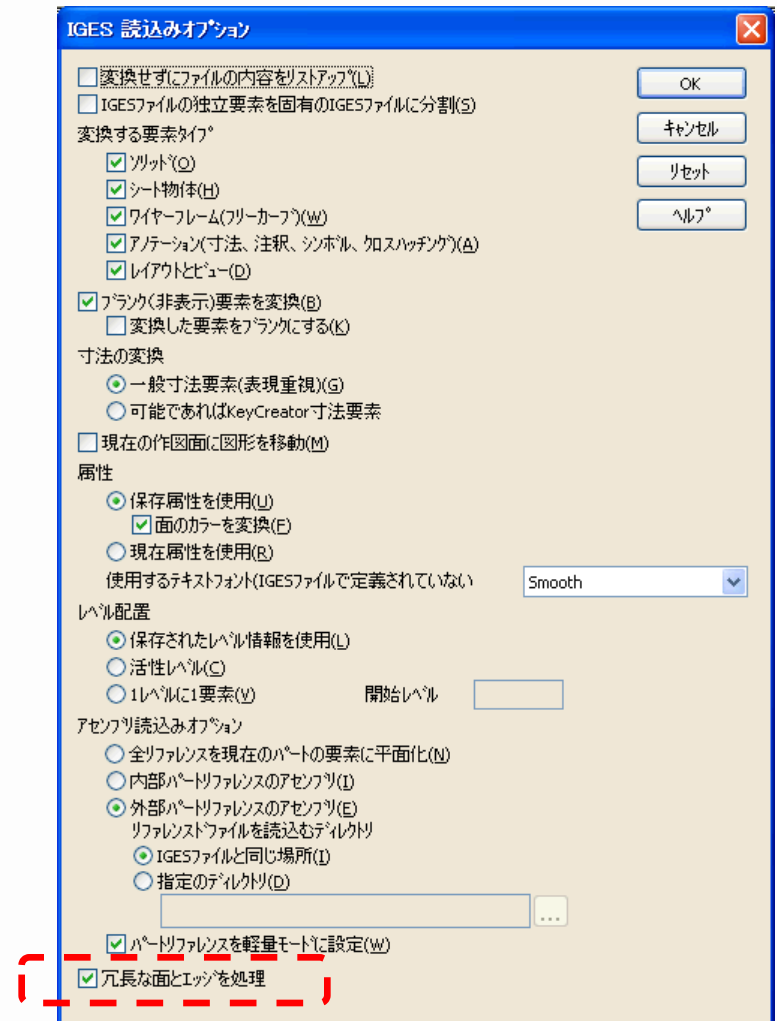
KeyCreator 2012 V11.3 データ変換の対応バージョン

ファイル形式	データ変換	サポートバージョン	アセンブリファイル	更新バージョン(赤字)
ACIS	読み込み	1.5 - R23	NO	R23
	書出し	1.5 - R23	NO	R23
CATIA V4	読み込み	4.1.9 - 4.2.4	NO	No Change
	書出し	4.1.9 - 4.2.4	NO	No Change
CATIA V5	読み込み	V5 R2 - V5 R22	YES	No Change
	書出し	V5 R6 - V5R22	YES	No Change
DWG/DXF	読み込み	All versions upto 2012	NO	No Change
	書出し	R12 - R14, 2000/2002, 2004 - 2012	NO	No Change
IGES Geometry	読み込み	Up to 5.3	YES	No Change
	書出し	5.3	YES	No Change
Autodesk Inventor	読み込み	Part Files: 6 - 11, 2008 -2012	YES	No Change
		Assembly Files: 11, 2008 - 2012		No Change
Parasolid	読み込み	10.0 - 25.0	YES	25
	書出し	12.0 - 25.0	YES	25
Pro/E	読み込みのみ	16 - 2001, Wildfire 1 - 5, Creo 1.0 - 2.0	YES	Creo 2.0
Solidworks	読み込みのみ	98 - 2012	YES	No Change
STEP	読み込み & 書出し	AP203, AP214	YES	No Change
Unigraphics	読み込みのみ	11 - 18, NX 1 - 8	YES	No Change

● IGES/STEP 変換オプション

– IGESとSTEPの読み込みオプションに、「冗長な面とエッジを処理」チェックボタンが追加されました。

- 面を結合させたくない場合にはチェックをはずして下さい。
- デフォルトではチェックされ結合します。

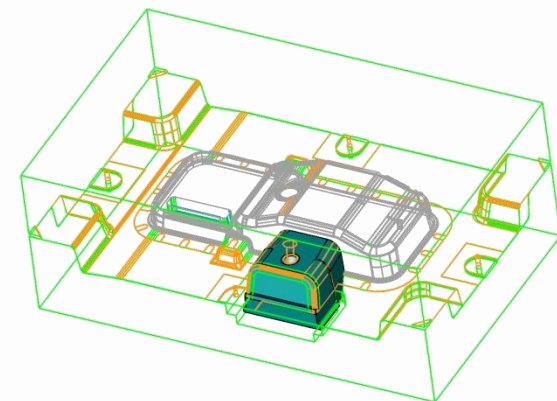
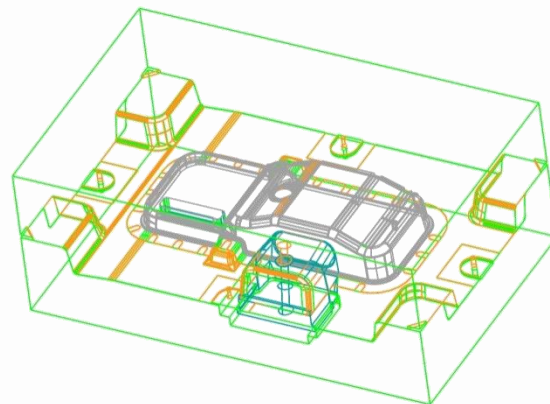


● 新しいKXLマクロ

- 便利なマクロコマンドが追加されました。
 - .../KXL/Utilities/ 内にあります。
 - アイコンのあるものはツールバーに追加したり、キー割り当てが利用できます。
 - ツール:オプション:KXLで、ルートKXLや割り込みKXLに設定すると、
ツール:カスタマイズ:コマンドのルートKXL、割り込みKXLにアイコンがリストアップされます。

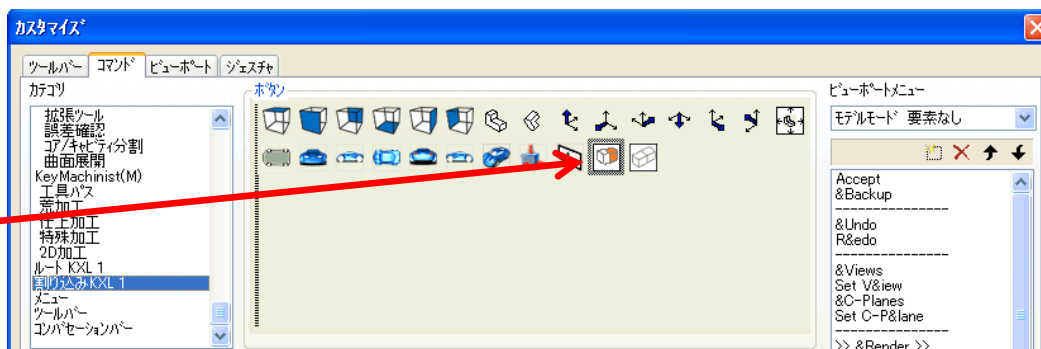
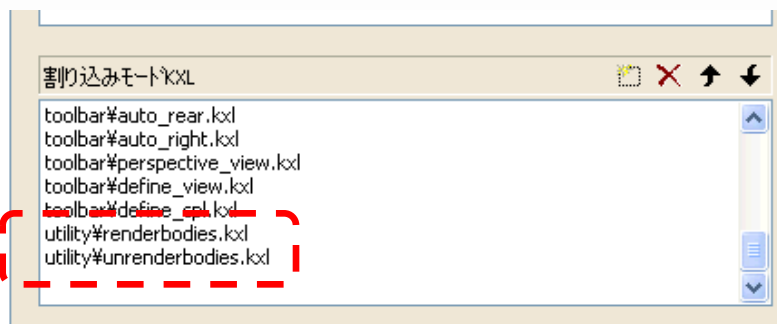
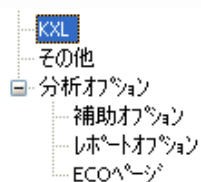
● ソリッドのレンダリング - (1/5)

- ソリッド要素のレンダリング設定/解除がマクロになりました。
 - アイコンを選択すると全要素が一時的にワイヤーフレーム表示になります。
 - レンダリングするソリッドを、1ピックで選択できます。
 - **KXLマクロファイル**(*RenderBodies.KXL, UnRenderBodies.KXL*)は、既にデフォルトで割込み**KXL**として読み込まれているので、ツール:カスタマイズ:コマンドでキー割り当てやツールバーにアイコンを配置して利用できます。



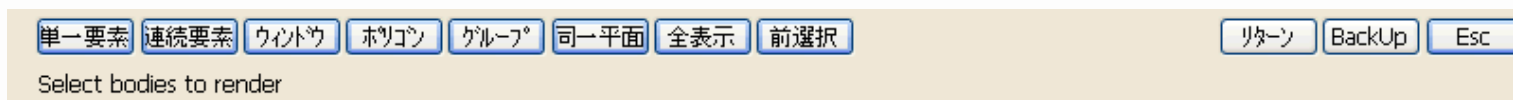
● ソリッドのレンダリング - (2/5)

- ツール:カスタマイズ:コマンドで、キー割り当てやツールバーへアイコンを追加できます。
- 既にデフォルトで、ツール:オプション:KXLに追加されています。

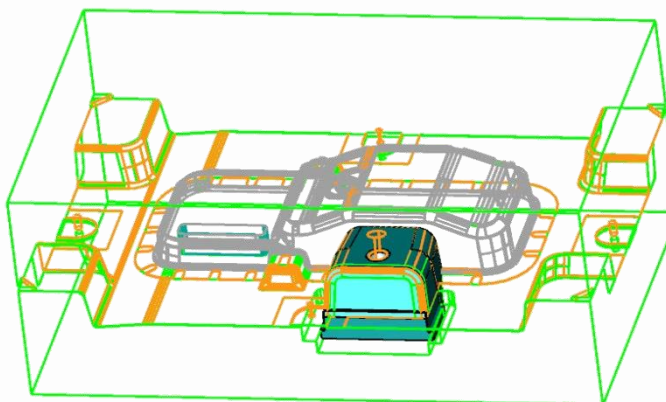


● ソリッドのレンダリング - (3/5)

- アイコンを選択すると、コンバセーションバーにプロンプトが表示されます。

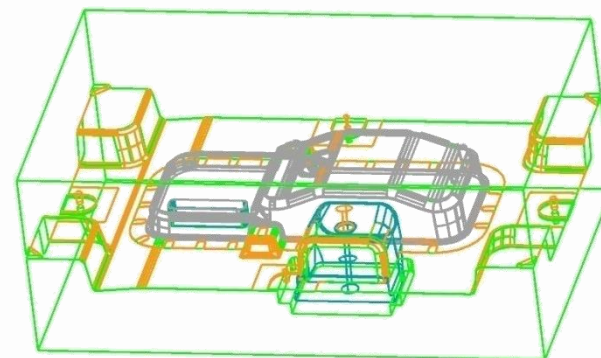
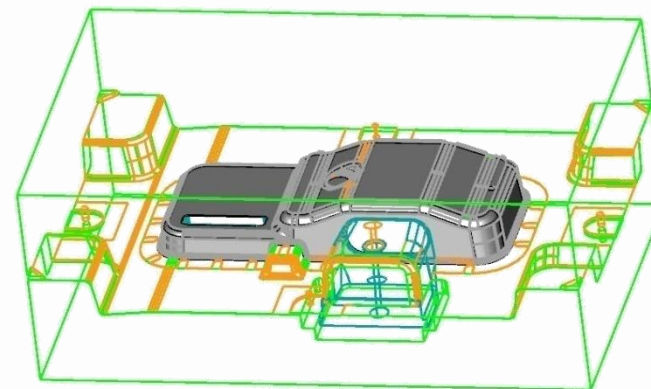


- レンダリングするソリッドを選択します。



● ソリッドのレンダリング - (4/5)

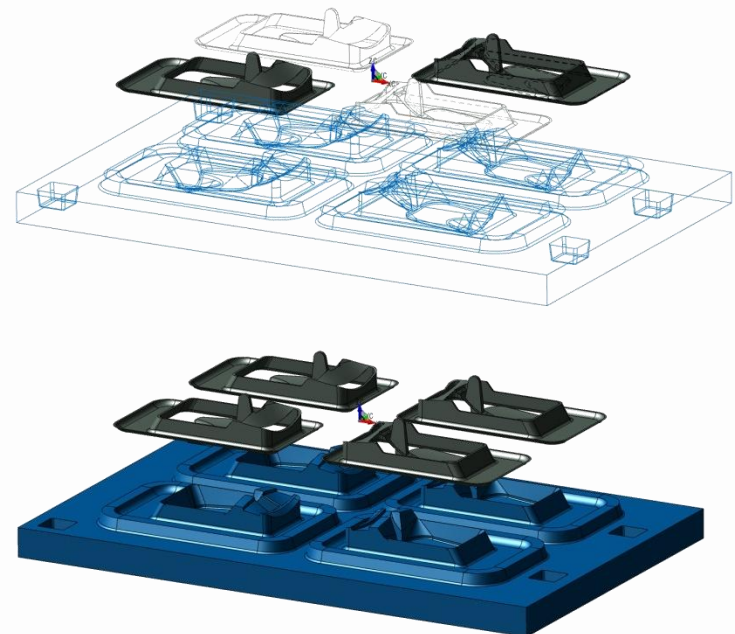
- 繰り返して別のソリッドを選択すると、先にレンダリングされていたソリッドは元のレンダリング状態に戻ります。
- 何も選択せずに[リターン]を押すと、全てのレンダリングソリッドがワイヤーフレームの状態にリセットされます。




- ソリッドのレンダリング - (5/5)


- ソリッドのレンダリング解除

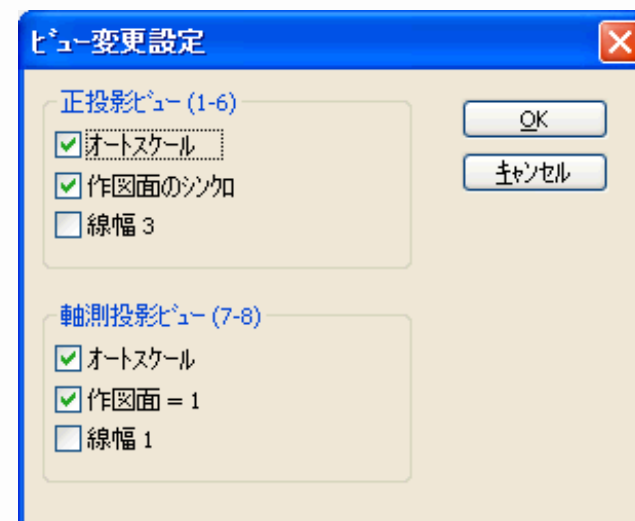
- ソリッドのレンダリングでレンダリングした状態を解除します。



● ビューと作図面のシンクロ設定 - (1/4)

- **ViewBtnSet.KXL** は、デフォルトのビューショートカットキー ([Alt+1] ~ [Alt+7]) やビューアイコン  を使用する際に、ビューの切替えと同時にオートスケールや作図面の設定およびスケッチ／モデリング用の線幅指定などを行うことができます。

- [Alt+(+)] ([Alt]キーを押しながら[+]キーを押す。テンキーは不可) からアクセスしてビュー変更設定ダイアログボックスを表示させます。
または、 をクリックします。



- ビューと作図面のシンクロ設定 - (2/4)

- 設定はパート単位で、セッション設定ではありません。
- デフォルトでは、ビュー切替えと同時に「作図面をシンクロ」がチェックされています。[P27 ビューアイコンとショートカットキー](#)を参照。

● ビューと作図面のシンクロ設定 - (3/4)

- オプション:

● ビュー1~6

- オートスケール - 常にオートスケールを実行
 - » チェックしなければオートスケールを実行しない

- 作図面とシンクロ - ビュー番号と作図面番号を一致させる
 - » チェックしなければ常に作図面=表示ビューまたは現在の作図面を保持

- 線幅3 - 新規の要素はすべてこの線幅で作成

● ビューと作図面のシンクロ設定 - (4/4)

- オプション:

● ビュー7および8

- オートスケール - 常にオートスケールを実行
 - » チェックしなければオートスケールを実行しない

- 作図面 = **1** - 作図面を1に設定

» チェックしなければ常に作図面=表示ビューまたは現在の作図面を保持

- 線幅**1** - 新規の要素はすべてこの線幅で作成

● その他のマクロ - (1/3)

- *Recycle.KXL*



- 要素削除のもう1つの方法です。
リサイクルを実行すると、要素をリサイクルの非表示サブレベルに移動します。
通常のレベルに再度移動すれば、それらの要素を復元できます。

- *SetNameToID.KXL*



- 表示される全ての面やボディの名前を、対応するID番号に変更します。
名前はツールチップに表示されるので、任意の面を簡単に探すことができます。

ツットの面
名前 = ID 33

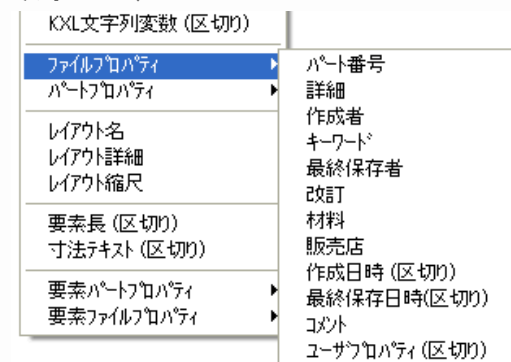
● その他のマクロ - (2/3)

- *MoveIDtoALev.KXL*

- ユーザー指定のID番号によって、要素をすばやく隔離し、活性レベルに移動します。
エラーチェックにより不正と報告された要素を見つけるのに非常に便利です。

- *UpdateFields.KXL*

- フィールドコードを含むKeyCreatorの全ての注釈要素で、各フィールドの現在値の表示を更新します。



- その他のマクロ - (3/3)

- **OneClickPrint.KXL**


- KeyCreatorで設定されているデフォルトの印刷設定を使用して、アクティブビューポートをデフォルトのプリンタに送ります。

- **NewBackgroundColors.KXL および
NewPaletteColors.KXL**

- これら2つのプログラムは、アクティブパートのカラープロパティをデフォルトのテンプレートファイルの設定に一致するように変更します。
古いCKDファイルを新しいファイルに一致するように更新します。
 - NewBackgroundColorsプログラムは、
ファイル:プロパティ:表示カラーページの全19のカラー設定を行います。
 - The NewPaletteColorsプログラムは、
ファイル:プロパティ:属性ページのパレットの64色を設定します。

● ビューアイコンとショートカットキー

- デフォルトのショートカットキー[Alt+1]～[Alt+7]とツールバーのビューアイコン(青パターンのアイコン群)が、表示ビューと作図面がシンクロするように変更されました。

- [Alt+(+)]キーまたは、をクリックで設定変更が可能です。
([P20 ビューと作図面のシンクロ設定](#) を参照)

- **表示ビューの変更のみの以前のバージョンの機能は、赤パターンのビューアイコン**としてビューツールバーにあります。(ツールバーにないビューのアイコンは、ツール:カスタマイズ:コマンド:カテゴリ:割り込みKXL1から追加することができます)

